

第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする

デイリー・ジーザス・ニュース #142

2. イエスはサマリアを通ってエルサレムへ向かう

ルカ9.52-56

52 イエスは使者たちを先に遣わし、使者たちはイエスのために準備を整えるためにサマリア人の村へ行きました。53 しかし、その人々は彼を歓迎しませんでした。なぜなら、彼がエルサレムに向かっていることを知っていたからです。

54 弟子のヤコブとヨハネはこれを見て、「主よ、彼らを滅ぼすために、天から火を呼びましょうか」と言った。55 しかしイエスは振り向いて彼らを叱責しました。

56 それから、イエスと弟子たちは別の村へ行きました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ
タイムライン	9月（31月）
イエスの生涯 の文脈	第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教
	A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする
タイトル	2. イエスはサマリアを通ってエルサレムへ向かう

コメント：

の生涯におけるこのような出来事の断片的な断片は、イエスの本質と人格について、計り知れない洞察を与えてくれます。どんなに些細なことであっても、あらゆる言葉や行きの中にイエスの栄光を見ることができます。イエスの真の姿を見るとき、私たちの心は揺り動かされ、イエスが御靈によって私たちの中に、そして私たちを通して生きておられるとき、イエスに倣う者となろうとするのです。

第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする

ルカは、イエスがガリラヤでの宣教を終え、迫り来る死と復活を心に留めながら、エルサレムと仮庵の祭りへと南下されたことを明確に記しています。ガリラヤを去るこの最後の旅は、イエスが死と墓への勝利に立ち向かうという決意を固めるものでした。一步一步が、イエスを十字架へと近づけていったのです。

イエスは最終的に敵のために命を落とすために旅をしていた。そのため、道中でサマリア人から敵意を向けられても、イエスは驚きもせず、落胆もしなかった。一方、ヤコブとヨハネは、敵からの偏見と差別に対し、典型的な怒りと復讐心で反応した。彼らは報復を望んでいたのだ。イエスと弟子たちの間には、その隔たりが如実に表れていた。

イエスはひるむことなく、次の町へと進み、十字架へと着実に歩みを進めました。それが愛の働きです。敵のために命を捨てる覚悟は、相手がどんな仕打ちをしようとも、慈悲深く、思いやりをもって共に生きることを意味します。イエスはこの姿勢を「山上の教え」で教え、ここでそれを実践しました。

この姿勢こそが、イエスが十字架のあらゆる恥辱と苦痛に耐えることを可能にしたのです。イエスは33年間、この姿勢を貫きました。十字架上での6時間にわたる贅いの苦しみの間も、この姿勢を貫き通しました。この姿勢こそが、イエスが今日も、そしてイエスと共に過ごす永遠の命の残りの日々も、私たちを救い続けるための、絶え間ない動機なのです。この姿勢こそが、救いが単なる物ではなく、人格である理由なのです。

応用：

あなたは偏見や差別、迫害に対して怒りや不満で反応しますか、それとも敵に対して祈りを込めた同情で反応しますか。

この聖書箇所にあるイエスの例に従うためには、何を実践する必要がありますか。

今日、あなたに惜しみなく注がれた神の愛の恵みに対して、あなたはどうのように神を賛美し、礼拝しますか。